

保護者各位

本校の教育活動に関するアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

本年度の学校教育評価を下記の通り公表させていただきます。

今回の結果を、次年度の学校経営に生かしていきたいと思っておりますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

芦原小学校長 島田 充寿

令和2年度 芦原小学校学校評価書

▲は目標指数を達成できなかった項目。

項目	具体的取組	評価者	質問内容	目標指数(%)	結果(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価	
健康・安全	業間活動（マラソン・縄跳び）、運動遊びを充実	教職員	児童への意識づけを十分行った	90	100	教職員・児童・保護者それぞれ目標指数を上回る結果を得ることができた。コロナ禍によって様々な影響を受けたが、その中でも児童の運動不足は大きな問題であったように思う。業間活動や体育の時間で、教職員が意識づけを行い、児童もそれに応えたことで、このような結果になったと言える。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校外で運動に取り組む時間は児童によって差があるので、業間活動や運動遊び等の取り組みについては今後も継続して取り組む。 ・新年度も感染症への不安は継続すると思われるので、より感染症の知識と予防の必要性の理解と差別偏見防止に努め、緩むことなく感染予防による生活が継続できるように指導を行う。 ・情報モラルやスマートルールについては、学年に応じた学習や指導を行い積み重ねていく。特に長期休みの前には家庭との連携を深めながら、十分に指導を行う。 ・規則正しい生活習慣の構築のためにも、早寝の重要性を啓発していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による運動不足は深刻な状況であったと思うが、業間マラソンなどが実施できたのは良かった。 ・今年度はコロナという特殊な状況下において、大人も子供も皆が「手洗い・うがい」などの感染症予防がいかに大事か再確認できたと思う。 ・躰の基本はまず生活を伴にする親自身が手本を示すことだと考える。積極的な日々の啓発が効果を上げているように思う。 ・小学校の期間はしっかりとした体をつくる期間だと思ふ。そのためにはよく食べ、よく寝て、よく体を動かすことが一番大切であると思う。 	
		児童	業間マラソンや体づくり熱心に取り組んでいる	95	95				
		保護者	意欲的に取り組んでいると思う	80	86				
	当たり前だが、当たり前に行ける児童の育成に努める		教職員	定められた約束事の指導を熱心に行った	90	100	今回の結果は、教職員・児童・保護者共に目標を上回る素晴らしい結果であった。今後も今年の取り組みを継続していくとよい。情報モラルやスマートルールについては情報機器の所有率も年々増え、中には依存傾向のある児童もいるので、家庭との連携の下に対策に当たる必要がある。		
			児童	定められている約束事をいつも守っている	95	96			
			保護者	約束事をいつも守っていると思う	80	94			
	家庭と連携し、「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」に取り組む		教職員	児童や家庭に啓発を積極的に行った	90	87	今年度は新型コロナ対策が優先され、児童・家庭への啓発が後回しになってしまった所がある。児童、保護者は目標を上回る数値であったが、「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」が当たり前のこととなり、目標指数が今より引き上げられるように、日々啓発を続けていかなければならない。		
			児童	「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」ができている	80	83			
			保護者	できていると思う	80	85			
開かれた学校・連携	ふるさとに愛着をもち、大切に育てるため、ゲストティーチャー、地域、下学年との連携をさらに深めた体験的学習への取り組み	教職員	ふるさとに愛着をもつ指導や活動に取り組んでいる	90	100	例年行われてきた全学年での自然体験学習や町探検、新幹線工事見学等、今年もコロナ禍であったが、ほぼ実施できたこともあり全体的に結果は良かったと思われる。学ぶだけでなく、学んだことを生かして地域の活性化につながる活動を増やしていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化につながる活動を拡充すること、新しい教科書と関連付けること、学年の進度に合わせて繋がり良く地域を学習することを考慮して、ふるさと学習の全体計画を見直す。 ・ふるさと学習の成果を下の学年に見えるように掲示場所を工夫したり、発表会を行ったりして、縦の繋がりを強化する。 ・各学年の活動を定期的にホームページに掲載したり、年間で担当行事を割り振ったりして、無理なく更新頻度の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人になったらあわら市で生活してほしいと願っているので、ふるさと教育に力を入れて取り組むことが大事だと思う。 ・ふるさとの学びの土台があってこそ世界へ飛び出せる人材を育てられると信じている。 ・密にならない等の制限がある中で学校公開をしてもらい、子供たちの様子が確認できてよかった。 ・緊急メール発信に丁寧さ、分かりやすさ、親切さが盛り込まれて良かった。 	
		児童	あわら市のことが好きになったと思う	90	90				
		保護者	あわら市のことが好きになっていると思う	80	93				
	各種たより、ホームページ、緊急メールを活用し、丁寧な情報発信をします。		保護者	学校公開等により、子どもたちの様子がよく分かった	90	91	コロナ禍でも分散参観など密の回避を工夫して学校公開を行った。各種おたよりで児童の様子や学校からの連絡を発信してきた。ホームページについては活動の更新が遅れたりしたが、後半は校長や教頭が「学校の様子」を作成することで更新頻度の向上を図った。		
			教職員	情報を迅速・正確に発信している	90	88▲			
			保護者	知りたい情報をよく知り得ることができた。	90	91			

項目	具体的取組	評価者	質問内容	目標指数(%)	結果(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
確かな学力	学びを支える学習ルール共有と基礎学力の定着	教職員	漢字や計算の練習を毎日実施し、その点検を行っている	90	100	後期よりマスターテストを再開し、基礎的基本的な学力向上の対策を行った。学び合いの学習が制限される中で、マスターテストやSASAに向けた学習に継続的に取り組む児童が増えた。今後は家庭で自主的に学習に向かうことのできる姿勢を養う必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の意欲向上につながるように、マスターテストの記録表にシールを貼ることに加え、毎月の満点賞も出す。 マスターテストの目的を再考し、基礎基本の定着につながるように、めあてとすることをしっかり決めて全学年で足並みをそろえて取り組みを行う。 年度末には1人1台のタブレットが導入された。効果的な活用法について研修を行い、児童が楽しみながら学習に取り組めるようにする。 話し方の指導と共に聞き方の指導も重点的に行う。話し手の主張内容をしっかりと受け取ることができ聞き方を身につけ、つながる話し合い活動になるようにしていく。 学年日より・ホームページ等を通して、学校での読書活動の取り組みを保護者へ知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度からの3ヶ月の休業があり学力面の不安があった。学校再開後は夏休みの短縮や先生の努力で遅れを取り戻して安心している。 分からないことを包み隠さず素直に質問できるようになればよりよい話し合い活動になると思う。今後も児童が進んで発言できるような取り組みを期待する。 臨終休業中の動画配信では十分に学習することはできなかったが、年度末の1人1台のタブレット導入により、来年度からは新しい授業や学習法が生まれることに期待する。 読書の評価が低いので、目標達成のための工夫が必要と思う。本の良さを引き出す手立てがあるとよいと思う。
		児童	漢字や計算の勉強に毎日熱心に取り組んでいる	90	86▲			
		保護者	漢字や計算の勉強に毎日熱心に取り組んでいると思う	80	88			
	・学び合う、認め合う、深め合う場を工夫し、楽しむ授業づくりの推進 ・国語科教育を核として、未来への学びの研修と実践	教職員	日々教材研究や授業研究を熱心に行っている	90	88▲	約3か月の休校により、常に進度を気にしながらの日々の授業実践であった。時間がない中でいかに効率よく且つ楽しい学習になるか、学習ツールやICT機器等を取り入れながら実践できたのではないかと。その結果、学ぶ楽しさや学習の理解度が昨年度よりも向上している。	<ul style="list-style-type: none"> 約3か月の休校により、常に進度を気にしながらの日々の授業実践であった。時間がない中でいかに効率よく且つ楽しい学習になるか、学習ツールやICT機器等を取り入れながら実践できたのではないかと。その結果、学ぶ楽しさや学習の理解度が昨年度よりも向上している。 	
		児童	授業が分かりやすく、楽しいと思う	90	92			
		保護者	日々の学習内容をよく理解していると思う	80	88			
	話し合い活動や発表活動を計画的に実施	教職員	話し合い活動や発表活動を計画的に実施し、見直しも適宜行っている	90	88▲	コロナ禍による話し合いや発表活動が制約される中で、目標指数を達成するのは難しかったと思われるが、できる範囲での活動を各学年が工夫して行ってこれたのではないかと考える。	<ul style="list-style-type: none"> 話し方の指導と共に聞き方の指導も重点的に行う。話し手の主張内容をしっかりと受け取ることができ聞き方を身につけ、つながる話し合い活動になるようにしていく。 	
		児童	自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりすることが、しっかりできてい。	90	87▲			
	朝読書、読み聞かせ、家庭読書の日など読書活動を充実	教職員	読書活動の習慣化を図る働きかけを十分行っている	90	86▲	コロナ禍により、図書室の利用に制約があったり、朝学習での読書時間が減ったりしたが、児童や保護者の数値は昨年度を上回っている。しかし、目標指数との差は依然大きいので、本を読んでいるという実感（目に見える形で）もてるような取り組みを設定していくとよいのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> 学年日より・ホームページ等を通して、学校での読書活動の取り組みを保護者へ知らせる。 	
		児童	学校や家で（マンガや雑誌以外の）本を毎日読んでいる	80	66▲			
		保護者	学校や家庭でよく本を読んでいると思う	80	50▲			
	豊かな心・特別支援	思いやりの心、認め合う心を育てるため学校行事、縦割り活動、「なかよしタイム」に取り組む	教職員	思いやりや感謝の心を積極的・計画的に指導している。	90	92	コロナ禍により、思うように交流する活動ができなかったが、いずれも目標数値を上回った。少しずつでも縦割り活動や学校行事を実施してきたことや、各学年で普段の指導やおたより等を通して、児童の意識づけをしたり、保護者の理解を得るよう取り組んだりしてきたためと考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> 新年度も体育館で一斉に集まる活動は難しいかもしれないが、各班で各教室にも集まって交流するなど実施方法を工夫しながら縦割り班の活動を継続する。 なかよしタイムはCOVID-19が収まったら再開する。 登校班や学級でのあいさつ運動の他にも、高学年が活躍する場として、委員会でのあいさつ運動を新たに実施する。 全教職員が同じ意識をもって指導し、名前を呼ばれたら必ず返事をする、先生に対しては丁寧語を使うことが身につくよう取り組む。 毎月のいじめに関するアンケートや、週1回実施の教職員の情報交換会は今後も継続する。
児童			やさしくしたり、「ありがとう」を言ったりできる。	90	95			
保護者			思いやりや感謝の心がよく育ってきていると思う	80	93			
「明るく、元気に、笑顔で」を合言葉に「すすんであいさつ」の推進		教職員	挨拶や返事の指導を意図的・計画的に行っている	90	100	児童の目標指数を達成することができ、昨年度の数値を上回ることもできた。委員会の児童が実施しているあいさつ運動が、良い意識付けになっている。しかし、学校外での挨拶ができない児童もいる。コロナ禍で地域の交流の場が減ったことも一因かと考えられる。	<ul style="list-style-type: none"> 登校班や学級でのあいさつ運動の他にも、高学年が活躍する場として、委員会でのあいさつ運動を新たに実施する。 全教職員が同じ意識をもって指導し、名前を呼ばれたら必ず返事をする、先生に対しては丁寧語を使うことが身につくよう取り組む。 毎月のいじめに関するアンケートや、週1回実施の教職員の情報交換会は今後も継続する。 	
		児童	進んであいさつをしたり、きちんと返事したりしている	90	93			
		保護者	進んで挨拶したり、しっかり返事したりしていると思う	80	85			
いじめ防止への取り組み		教職員	いじめ防止等の対策にしっかり取り組んでいる	90	100	月1回の児童アンケートと、年2回の保護者アンケートが早期発見だけでなくいじめの抑止・予防にもつながっている。また、教員の意識が非常に高いことがこの結果となったのだろう。しかし、3者全てで100%を目指さなければならぬ。	<ul style="list-style-type: none"> 登校班や学級でのあいさつ運動の他にも、高学年が活躍する場として、委員会でのあいさつ運動を新たに実施する。 全教職員が同じ意識をもって指導し、名前を呼ばれたら必ず返事をする、先生に対しては丁寧語を使うことが身につくよう取り組む。 毎月のいじめに関するアンケートや、週1回実施の教職員の情報交換会は今後も継続する。 	
		児童	相手の気持ちを考えて話したり行動したりできている	80	90			
		保護者	いじめや不登校のない学校づくりに取り組んでいると思う	80	94			